

## 中村 匡（ただし）さん（昭和62年卒）

一関市立萩荘小学校 校長

### ◇お仕事の内容を教えてください

今年度（令和3年4月）から一関市立萩荘小学校の校長として赴任しました。平成3年4月から岩手県の中学校教員として勤務し始め、陸前高田市、遠野市、北上市で計24年、主に英語と野球を教えてきました。その後、釜石市教育委員会、上野中学校副校長として計6年間、勤務しました。

今年、教職員歴31年目にして、初めての校長職、初めての小学校勤務、初めての一関市での勤務等、初めて尽くし+毎日のコロナ対策等で緊張の連続ですが、子ども達の安全・安心を第一に考え、先生方の心と体の健康に気を配りながら職務にあたっています。

また、地域の方々の温かさを感じながら日々の教育活動を行っています。



### ◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

今は毎朝、元気に登校してくる子ども達と笑顔で挨拶を交わし、気持ちよく一日のスタートがきれる喜びを感じています。毎朝、「いってきます！」と子ども達が元気に家を出て、学校生活を満喫し、「ただいま！」と無事に家に帰ることが何より一番の喜びだと考えています。

中学校の教員時代は、学級や学年、部活動でやんちゃな子ども達と関わることが多い日々でした。

紆余曲折ありながらも、その子たちの良さを見つけ、伸ばし、立派に中学校を卒業していく姿を見たときは、実に感慨深いものがありました。卒業してから再会し、昔話ができる関係は幸せだなと感じています。

### ◇将来の夢を教えてください

世界中、あらゆる分野で急速に進むAIの導入は、教育現場も例外ではありません。しかし、AIに頼りすぎていると子ども達が能動的に考える力が失われ、私たち教員の存在自体も危ぶまれてくるかもしれません。「人間による人間の教育」、生身の人間だからできる教育を探りながら、「考える力」「学ぶ意思」「生き抜く力」が身につく、「人間臭い」学校づくりを目指したいと思っています。また、老後には気力・体力・財力があれば、野球チームを作り、子ども達と一緒に汗や涙を流し、青春を謳歌したいとも思っています。

### ◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

盛岡の実家を離れ、寮生活をしながら、硬式野球に没頭した3年間でした。決して模範生とは言えない生徒で、当時の先生方には大変ご迷惑をおかけした生徒の一人だったと反省しています。

しかし、関わった先生方、硬式野球部の監督やコーチの方々には人間味にあふれ、厳しくも、私を正しい道へと導いてくれました。将来、教員を目指し、野球指導をしたいという考えを持たせていただいた母校・専大北上での生活は、人生においての大きな分岐点、であり、大切な宝物となりました。最高の友、一生の友との出会いにも感謝しています。

#### ◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

これからの人生、『報恩奉仕』すべての「恩」に感謝し、『質実剛健』体も心もたくましく、『誠実力行』真心をもって目標に向かって下さい。

誰に何と言われようが、正しいと思ったこと、自分のやりたいことをやり続け、歩んでください。やり続ければ成功します。きっと。学生時代の悩みや苦しみはいずれ、笑える日が来ます。頑張ったことは肥やしになります。

♪若き精神に誇りあり～♪ 北高選手いざや起て♪いつまでも母校や後輩たちの活躍を陰ながら応援しています。ガンバレ～センキタ～！

\*\*\*\*\*

#### ☆取材後記

当方からの原稿作成のお願いから完成原稿が戻ってくるまでのスピードがとても速く、また、内容・ボリュームとも読み応えのあるものを頂戴し、凄い熱量の方なのだと感じました。

頂いた「専北生へのメッセージ」は、広くすべての若者にとっての羅針盤となるものですね。

中村先生、益々のご活躍を！（担当：Y）